

■After 建築名称 下段: 英語名	磯辺行久記念 越後妻有清津倉庫美術館 Soko		
建築用途	大分類 展示施設	小分類 美術館	
改修設計者	山本想太郎設計アトリエ	URL	
所在地	新潟県十日町市角間末1528-2	Google Map	
改修年	2015年: 体育館展示室、2018年: 学校全体を美術館		
建築規模	RC造・地上2階 地下1階 塔屋・延床面積2,158.90㎡		After 体育館の大きな空間を活かして「大地の芸術祭」の展示会場に
掲載書誌	『建築ジャーナル』誌 2018年9月号、『建築雑誌増刊 作品選集2020』(2020年、日本建築学会)など		概要 after ”展示しながら、保管する”をコンセプトに体育館を大型作品の展示空間に、教室棟を展示室と収蔵庫にリノベーション
賞・選定	第25回 AACAW賞 優秀賞(2015年、日本建築美術工芸協会)、東京建築賞(2019年、東京都建築士事務所協会) 奨励賞、2021年度グッドデザイン賞		
資料・その他	URL		
■Before 建築名称	清津峡小学校		概要 before 1879年に創立し、2009年に廃校となった小学校。現存の建物は1994年に改築された校舎
建築用途	大分類 教育施設	小分類 小学校	
■写真 Before	リノベーション前の体育館と校舎棟	After 左: 校舎棟、右: 体育館	After 展示空間になった校舎棟の内観
			
撮影者 提供者	山本想太郎	撮影者 提供者	山本想太郎
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、アート	内容 作品の保管場所に困っているアーティストと、空家・廃校が増え続ける越後妻有の双方の問題点をプラスに変換しようと考案された、「展示しながら、保管する」美術館。3年に一度開催される「大地の芸術祭」の会場として活用されるだけでなく、会期以外にも現代美術の最前線の大型作品を鑑賞できる。2015年にオープンした体育館の大展示室に続き、2018年には校舎棟を主としてアーティスト・磯辺行久氏の作品を展示する美術館にリノベーション。 リノベーション概要・・・小学校から展示施設への用途変更に伴い、内装、防災、設備などの法適合性を確保する改修をおこなった。意匠的には内外装に手を入れつつも、全体の半分程度は小学校としての雰囲気を残して「日常空間の中に美術品が置かれている」という感覚を呼び起こすように意図された。これは既存の美術館への批評でもあり、リノベーションでなければならない表現手法といえるだろう。体育館では、既存の舞台・プロセニウムだけでなく床も全面解体し、空間の最大化を図った。	
■備考	大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ・・・「人間は自然に内包される」を理念に、新潟県十日町地域の約762平方キロの広大な土地を美術館に見立て、アーティストと地域住民とが協働し地域に根ざした作品を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とする芸術祭。第1回を2000年に開催し以降三年毎に開催されている。越後妻有清津倉庫美術館Soko は中里エリアの主要施設。＜参照: Wikipedia＞		
■作成者 氏名/所属	桐原武志/Free JIA再生部会	作成協力 者	山本想太郎設計アトリエ